



境広志学生部長のご挨拶



みなさまこんにちは。学生部長の境です。学生部長は今年で6年目になります。成蹊の魅力はレガッタ、学内運動競技大会、四大戦そして樗祭などの行事にあると思います。これらの行事を開催するために多くの学生たちと関わっていくことも学生部長としての楽しみの一つです。そして課外活動をサポートしていくことも学生部の大きな仕事になります。昨年から新型コロナの感染拡大により一時的に対面での活動を制限せざるを得ない状況が生じました。活動再開のために各団体には詳細な感染防止対策マニュアルを作成してもらいました。専門的な立場から大学保健室のアドバイスをいただき、各競技団体や連盟から出されている対策マニュアルも参考にしてもらい、何度もやりとりをする中でマニュアルを完成させました。学生にとってもそして学生部にとっても初めて直面する難題が多く、さまざまな工夫が求められる毎日ですが、学生部のスタッフ一同そして私自身もしっかりと学生たちと関わっていきながらコロナ禍におけるさまざまな問題に対処していきたいと考えています。OB OGのみなさま方のご協力、お力添え、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

成蹊大学 法学部教授 学生部長 境 広志 寄稿

昨今の卓球部 OB OG 会（蹊友会）活動の現状



新型コロナ感染リスクが1年以上続く中、卓球部OB OG 会（蹊友会）の活動もそれなりに整理されてきました。対面での活動が制限される中、会食がお約束の「OB OG戦」、「現役幹部との打ち合わせ会」などは中止としたものの、高齢者になじみの深い郵便とやや苦手なメールやネットを活用して基本的な活動は継続しています。役員会はメールでの意見交換と慣れないWeb会議に移行し、OB OG総会は郵送による書面開催となりました。また、従来から実施していた四大学卓球部OB OG戦は中止となりましたが、代わりに四大学卓球部OB OG会合同役員会をWeb会議で開催することが出来ました。

現役とのコミュニケーションもメール中心です。公式戦がすべて中止となった状況下での練習再開や練習内容の議論も、リスク負担を強いられる現役の意見を出来るだけ尊重した対応をしています。また、卒業生を対象にした「卒業お祝い会」は何とかWeb会議で実施しました。

この結果、卓球部の公式戦やOB OG会のイベントで掲揚される卓球部旗が ケースの中に1年以上保管され続けているのが残念でなりません。

現下の最大の課題は、2021年に開催を1年延期した「卓球部創部70周年記念式典」の取り扱いです。再延期とするのか、「75周年記念式典」にするのか、きっぱり中止にして80周年記念式典に委ねることがいいのか、悩ましい課題です。

卓球部OB会 会長 山田俊策 寄稿

男子籠球部 OB 会は本年度総会を開催



男子籠球部 OB 会は 4 月 4 日（日）に本年度総会を開催しました。昨年は、コロナの影響で開催できませんでしたが、今年度は Z o o m を活用して初めてのリモート開催としました。本年度より前会長の諸見里会長（79 経）から立花新会長（81 経）へバトンタッチして新体制でスタートをしました。また、通常の報告事項の他に今後現役への支援を強化するべく審議事項として O B 会費の値上げを審議して参加者全員満場一致で採択されました。今まで以上に O B 会と現役の連携をより強くして現役の目指す 3 部昇格を支援していきたいと思っています。

【現役の意気込み】

私たち体育会男子籠球部は現在、6 月下旬に開催される四大戦で優勝するために、週 5 日で練習に励んでおります。活動ができなかった期間は、Z o o m を活用してミーティングやトレーニングを行っておりました。また今年度は、プレイヤー 7 人、マネージャー 2 人の新入部員が加わり、計 27 名で戦っていきます。コロナ禍で先が読めない状況ですが、与えられた環境に感謝し、1 試合でも多く試合ができることを祈り、1 日 1 日を大切に活動しております。

男子籠球部 主将 熊倉圭吾 寄稿

リスクマネジメントセミナー報告



（株）ホープス 坂井伸一郎氏を招き、新入生を対象に 5 月 17 日 18：30 より Z o o m でおこなわれました。坂井氏は成蹊学園の卒業生でもあり、年に数回講演をお願い致しております。

境広志学生部長の挨拶で始まり 1 時間という短い時間ではありましたが、学生や O B O G 会長会 10 名を含め 180 名が参加致しました。

大学生活には色々な危険が存在しています。それを管理（回避）するにはどの様にすべきか。高校生と違い大学生は大人として扱われ、行動は各自が責任を持たなければなりません。部内に於いて良い意味での上下関係が、時にはハラスメント問題になる事もあります。飲酒・喫煙・暴力など、例えそれが昔の不祥事であったとしても、今は SNS など簡単に社会に知れ渡る事となります。

ではどの様に回避するか？まずは自分から関わらない事。そしてそのような事が発生してしまった場合は、即座に大学に相談する事です。

O B や O B O G 会も時代に即した行動や助言が求められている事を学びました。

O B O G 会長会 副会長 本間秀雄（72 年卒）寄稿

「スポーツと熱中症」の講演会を聴講



スポーツと熱中症というテーマは、学生部の主催で受講する機会も増えてきましたが、異なる講演者からも聞いてみたいとの興味と昨今の情報の入手の手段として「Z o o m」を利用する機会に慣れないといけないと感じトライしてみた。Z o o m での受講は、パソコンを扱える人にとって難しい作業ではない。

朝日新聞スポーツシンポジウムが「スポーツと熱中症」と題し 5 月 25 日オンライン配信（Zoom）で開催されたので聴講した。

第1部 講演1. スポーツと熱中症 /今村聡日本医師会副会長

講演2. 熱中症 甲子園での対策 /八田英二日本高等学校野球連盟会長

講演3. 症例から学ぶ熱中症、救命のための身体冷却法

第2部 夏のスポーツ コロナ禍の熱中症対策 /松本孝郎中央大学スポーツ科学部教授

第1部講演1では、熱中症を引き起こす条件は、「環境」（気温、湿度、風や日差し、身体の慣れ）、「からだ」（基礎疾患の有無、睡眠不足）、「行動」（急に走る）があります。水分補給だけでなく塩分の補給は大切です。

またコロナ禍では、マスクは必要ですが、2m以上の距離をとれば無理をせずマスクを外すことも必要です。講演2では、全国高校野球選手権を開催するにあたり、大会期間中に延べ200人近くの理学療法士を確保、スポーツドリンクはもちろん、身体を冷やすため氷嚢を準備したり、体温計や血圧計を用意します。また冷たいペットボトルで「手のひら冷却」をして深部体温の上昇を防ぐことも、選手のスパイクもこの時期では黒と白では10℃の差があることから白色のスパイクを履けるようにするなど熱中症対策に工夫を加えている。

第2部では、熱中症とは、「熱失神」「熱けいれん」「熱疲労」「熱射病」を総称したものである。命に関わる「熱射病」には特に注意が必要です。「熱疲労」は、自分で気づくことが重要です。倦怠感や頭痛などの熱疲労に気づかずに頑張るはいけません。このような場合には、救急隊員が来るまでに水分の補給ではなく身体を冷却させることが必要です。

情報の多い時代です。機会を見つけこのような講演にトライしてみると新しい勉強にもなります。

OBOG会長会 副会長 木村明彦 寄稿

事務局からの連絡

1. SMAnews 26号から「学生部」からの連絡情報をコーナーとして設けることとしました。その第一弾として境広志学生部長からご挨拶のお言葉をいただき掲載いたしました。
2. 既にOBOG会長会事務局から連絡した、学生部主催のセミナーの日程が変更となっています。
7/26（月）18:00～21:00 「コロナ禍におけるトレーニング&栄養セミナー」を予定していましたが、
7/5（月）18:00～20:00 ZOOMによる講演に変更になっていますのでご注意ください。
事務局で参加者の募集をしていますので沢山の参加をお願いします。
3. 日時：9/17（金）時間未定ですが、「本番で実力を発揮するためのメンタルセミナー」（仮称）を計画しています。（詳細は、約2週間前にはご案内いたします）
4. OB会事務局では、この一年Web（Zoom）を利用して情報交換をする機会が増えたような気がします。
Zoomを活用したOBOG会を始めたクラブもありますが、まだまだOBOG間で十分活用ができていないと
は言い難い状況です。そこで近いうちにOB会長会で“Zoom講習会”を企画いたします。
多数の方の参加をお待ちいたします。

Information 重要なお知らせ

■お知らせ

□次号 SMAnews 27号（7月～9月）は、9月25日頃発行予定です。すべてのクラブから活動状況の報告をお聞きしますのでご協力ください。

掲載責任者 木村明彦